

## 【高齢者の生きがい】

東海社会福祉科学研究所  
大北 秀雄

### 2 高齢者の生き方

#### (1) 中高年の生活

――続き――

##### 「高齢者像の変化」

- ・これまで、高齢者に生きがいを与えるものは、趣味や学習とされてきました。
- ・最近の大きな変化として現れたのは「社会参加」です。
- ・日本人にとって大きな価値観の変化をもたらしたものに1945年の敗戦と戦後民主主義があります。

- ① 75歳以上の高齢者(敗戦時概ね成人しており価値観ができあがっていた)
- ② 65～75歳(学齢期に民主主義教育の洗礼を受け、戦前の価値観との狭間で意識を構築)
- ③ 団塊の世代以降(戦後民主主義の申し子)

- ・①の生きがいは、孫の成長を楽しみ、自然に親しみ、仲間と趣味を共有して静かに暮らすことと思います。
- ・②は静かな社会構成員から積極的に社会の一員たろうとする意識が加わり、①より権利意識が強く、自己実現欲求も強いようです。  
老人クラブのゲートボールや温泉旅行のように隔離された同質者集団の中では決して満足しないようなところが多いと思います。
- ・生きがいが注目されてきたのは、高齢者の中心が①から②へと移ってきた時から、この傾向が強まってきたようです。
- ・高齢者は、働く、学ぶ、遊ぶ、すべての分野に「社会性」を求めています。
- ・高齢者は、労働を単なる生活の手段としてとらえず、社会的価値を求め、遊びも社会に向かって自己実現できるものを求めています。

##### 「50代からの人生」

50代からの人生について、すばらしいものにしたいと願っていた矢先に大きな変化がありました。その変化を与えたのが、2011年3月11日に日本列島を襲った東日本大震災です。

今までの私達の価値観や意識を根本から変えてしまうほどの衝撃であり、これからの時代の流れを考えることが求められています。

私たちの財産である美しい自然に恵まれた日本という国は、同時に災害が頻発する国でもあるという事実をもう一度真剣に考える必要性が求められています。

私達の祖先が幾度となく大きな災害に見舞われ、そのたびに立ち上がって来たように、私達も歩みを止めるわけにはいきませんし、生きる大切さをこれからの人に伝える義務もあります。

刻々と変化する世界情勢

目前に迫る超高齢化社会

脱原発の動き

そんな現実から目を背けずに、新しい時代に向けて、しっかりと歩いて行くことが求められており、そのことを皆でしっかりと受け止め、明日に向けて生きていくことが大切です。